

資料

笠間市仏頂山で採集された土壌性クモ類

菅波洋平*・久松正樹**・***

(2020年9月30日受理)

**Soil Spiders Collected at Mt. Buttyosan in Kasama City,
Ibaraki Prefecture**

Yohei SUGANAMI* and Masaki HISAMATSU**・***

(Accepted September 30, 2020)

Abstract

A list of soil spiders collected from 1987 to 1988 at Mt. Buttyosan in Kasama City is presented. This new list includes 48 species in 20 families, of which *Robertus nojimai*, *Arcuphantes uenoi*, *Walckenaeria orientalis*, and *Tegeocoelotes mizuyamae* are rare species with few records in Japan.

Key words: Arachnida, Araneae, *Robertus nojimai*, *Arcuphantes uenoi*, *Walckenaeria orientalis*, *Tegeocoelotes mizuyamae*.

はじめに

クモ類の分類については、分子系統学の発展もあって分類体系に大きな変更の動きが続いているが、国内では小野(2009)により分類の見直しが行われ、新たな体系で種が分類されるようになってきた。茨城県におけるクモ類の生息調査は、菅波(1971, 1975, 1992)などによって行われ、約460種が報告されているが、主に地上性の種が多い。土壌性の種の報告は、菅波(1991)のほか、ミュージアムパーク茨城県自然博物館総合調査による報告(菅波, 1998, 2001, 2004, 2007)を見るに過ぎない。

筆者の一人、菅波が所属する茨城土壌動物研究会では、1987年6月から1988年5月までの1年間、笠間市仏頂山山腹で土壌動物の生息状況を調査した。近年

多数のクモ類研究者により新種の記載が進み、この調査で採集した土壌性クモ類についても種名が判明したので今回報告する。

なお、土壌性クモ類とは、造網するか否かなどの行動の違いに因らず、土壌より採集された全ての種を含めることにする。また、執筆にあたりクモ類の採集・同定については菅波が行い、論文の構成については主に久松が行った。

調査地および調査方法**1. 調査地**

仏頂山は茨城県と栃木県の県境にある(北緯36度24分15秒, 東経140度11分36秒)標高430.8mの山で、八溝山地の南支脈である鶏足山地の南部に位置する

* 自宅 〒318-0004 茨城県高萩市上手綱53-12 (53-12 Kamitetsuna, Takahagi, Ibaraki 318-0004, Japan).

** つくば市立栄小学校 〒305-0018 茨城県つくば金田54 (Sakae Elementary School, 54 Konda, Tsukuba, Ibaraki 305-0018, Japan).

*** ミュージアムパーク茨城県自然博物館総合調査調査員。

(図1). 比較的傾斜の緩い丘陵地形で、山系に広がる森林はスギ *Cryptomeria japonica* (Thunb. ex L.f.) D. Don やヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Sieb. et Zucc. が植林され優良な木材を産出している. 中腹までは暖地性のシラカシ *Quercus myrsinaefolia* Blume, スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T. Yamaz. et Mashiba などが多く, 山頂にかけてはアカシデ *Carpinus laxiflora* (Sieb. et Zucc.) Blume, クマシデ *Carpinus japonica* Blume, イタヤカエデ *Acer pictum* Thunb. subsp. *mono* (Maxim.) H. Ohashi などの樹木も見られる (安見, 2001).

調査は, 山頂より南東方向に約 200 m 下がったシデ類が多くみられる標高約 370 m の調査地 1 と, 楞厳寺からの登山道を 1 km ほど登ったシラカシが多くみられる標高 300 m の調査地 2 の 2 箇所で行った (図 1).

2. 調査方法

土壌性のクモ類を採集するために, 調査地において土壌を採取し, ツルグレン装置で抽出した. 各調査地点で 25 cm × 25 cm の方形区を 8 カ所設け, 深さ 5 cm までの土壌サンプルを採取した. 各サンプルは 60W の白熱電球を使用したツルグレン装置で 120 時間の抽出を行った.

抽出したクモ類は, 液浸標本にして双眼実体顕微鏡と生物顕微鏡を用いて同定し, ミュージアムパーク茨城県自然博物館に収蔵した. 和名および学名, 種の配列は, 谷川 (2020) の「日本産クモ類目録 ver. 2020R3」に従った. なお, ヒタチヤマヤチグモ *Tegeocoelotes mizuyamae* Ono, 2008, フタバヤチグモ *Coelotes hamamurai* Yaginuma, 1967, タテヤマテナガグモ *Microbathyphantes tateyamaensis* (Oi, 1960), ザラア

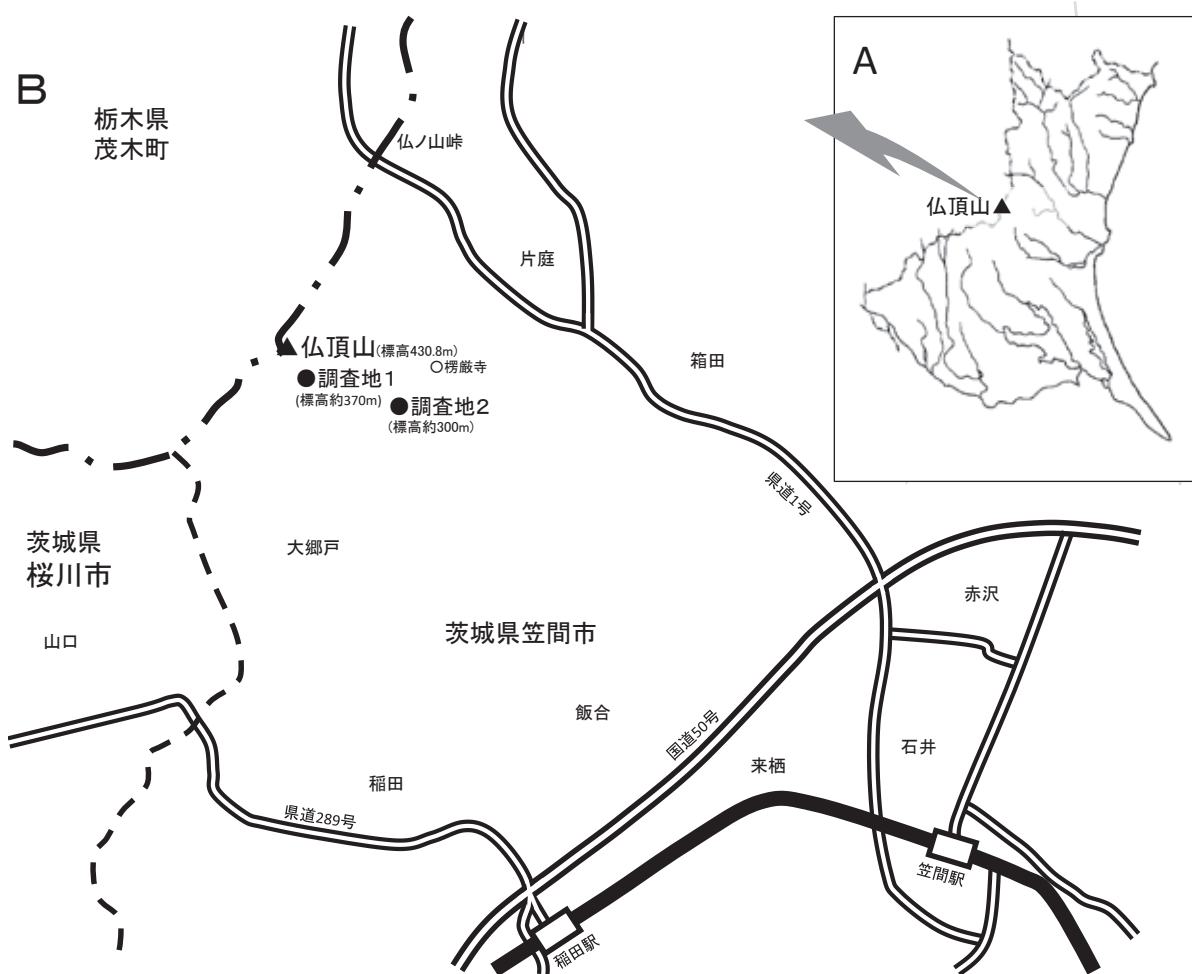


図 1. A: 笠間市仏頂山の位置, B: 調査地の拡大図.

Fig. 1. A: Location of Mt. Buttyosan, Kasama City, Ibaraki Prefecture; B: Magnified map showing the two surveyed sites.

カムネグモ *Asperthorax communis* Oi, 1960 の4種については、国立科学博物館動物研究部の小野展嗣博士の同定による。

3. 調査日

調査は1987年6月から翌年の5月まで、次のように合計11回実施した。

1987年：6月21日，7月19日，8月23日，9月21日，11月23日，12月22日

1988年：1月24日，2月21日，3月21日，4月24日，5月29日

4. 調査参加者

土壌の採取および資料のソーティングは、茨城土壌動物研究会（会長：田村浩志博士）の酒寄 廣氏，宍田幸男氏，菊地義昭氏，茅根重夫氏，大村 邁氏，宮田俊晴氏，萩野康則氏，石井 清氏，中村修美氏，伊藤良作氏，古野勝久氏，細野浩司氏，萩原康夫氏，敦見和徳氏と菅波が行った。

結 果

20科48種1,449個体の土壌性クモ類が記録された(表1)。各科の構成をみるとサラグモ科が最も多く15種(937個体)，カニグモ科5種(16個体)，ヒメグモ科4種(5個体)，タナグモ科3種(30個体)と続き，残りの科は2種以下であった。

調査地内で最も多く記録された種はサクラグモ科のイマダテテングヌカグモ *Oia imadatei* (Oi, 1964) で595個体(381♀214♂)，次いでサクラグモ科オオイワヤマトコナグモ *Paratapytocyba oiwa* (H. Saito, 1980) 254個体(159♀95♂)，ツチフクログモ科イタチグモ *Prochora praticola* (Bösenberg & Strand, 1906) 177個体(176♀1♂)，カネコトタテグモ科カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch, 1878) 98個体(98♀)，ウラシマグモ科ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus* Kishida, 1914, 90個体(66♀24♂)，サクラグモ科タテヤマテナガグモ 52個体(33♀19♂) の6種が50個体を超えて採集された。

なお，調査地別に見ると調査地1では13科27種，調査地2では17科36種が採集された。調査地1のみで採集された種は，オキツハネグモ *Orcheatina okitsui* Oi, 1958, ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argentealba* Bösenberg

& Strand, 1906, ウエノヤミサラグモ *Arcuphantes uenoi* H. Saito, 1992, ザラアカムネグモ, ニホンウスイロサラグモ *Asthenargus nipponius* H. Saito & Ono, 2001, ヒロテゴマグモ *Pseudomicrargus latitegulatus* (Oi, 1960), ヤマトトウジヌカグモ *Tojiniium japonicum* H. Saito & Ono, 2001, カントウヒゲヌカグモ *Walckenaeria orientalis* (Oligier, 1985), ヒタチヤマヤチグモ, マイコフクログモ *Clubiona rostrata* Paik, 1985, エビチャヨリメケムリグモ *Drassyllus sanmenensis* Platnick & Song, 1986, ヤマヨリメケムリグモ *Drassyllus sasakawai* Kamura, 1987の12種，調査地2のみで採集された種はジグモ *Atypus karschi* Dönitz, 1887, キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida, 1913), ナルトミダニグモ *Ischnothyreus narutomii* (Nakatsudi, 1942), ヨコフマシラグモ *Falcileptoneta striata* (Oi, 1952), ヤホシヒメグモ *Coleosoma octomaculatum* (Bösenberg & Strand, 1906), ツリガネヒメグモ *Parasteatoda angulithorax* (Bösenberg & Strand, 1906), ノジマモリヒメグモ *Robertus nojimai* Yoshida, 2002, スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* Yaginuma, 1969, クスミサラグモ *Nerienne fusca* (Oi, 1960), ツリサラグモ *Nerienne japonica* (Oi, 1960), アシナガサラグモ *Neriena longipedella* (Bösenberg & Strand, 1906), ヤマトマルサラグモ *Saaristoa nipponica* (H. Saito, 1984), スガナミヤマジコナグモ *Tapinocyba suganamii* H. Saito & Ono, 2001, ヨシアキナミハグモ *Cybaeus yoshiakii* Yaginuma, 1968, アズマキシダグモ *Pisaura lama* Bösenberg & Strand, 1906, ニッポンオチバカニグモ *Ozyptila nipponica* Ono, 1985, トラフカニグモ *Tmarus piger* (Walckenaer, 1802), ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* Fox, 1937, チシマカニグモ *Xysticus kurilensis* Strand, 1907, チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis* (Bösenberg & Strand, 1906) の20種であった。

採集個体数が多かった6種の調査地ごとの個体数比(調査地1の個体数：調査地2の個体数)はイマダテテングヌカグモが245:350で，以下，オオイワヤマトコナグモ(22:232)，イタチグモ(70:107)，カネコトタテグモ(6:92)，ウラシマグモ(31:59)，タテヤマテナガグモ(17:35)であった。

考 察

1. 科および種構成

今回の調査では，20科48種のクモ類の生息が確認

表 1. 笠間市仏頂山で採集された土壌性クモ類の種と個体数.

Table 1. Species of soil spiders and their number of individuals collected at Mt. Buttyosan in Kasama City.

科名/種名	総個体数	調査地別個体数		採集年月日					
		調査地 1	調査地 2	1987					
				6月21日		7月19日		8月23日	
				調査地 1	調査地 2	調査地 1	調査地 2	調査地 1	調査地 2
ジグモ科 Atypidae									
ジグモ <i>Atypus karschi</i> Dönitz, 1887	2 ♀		2 ♀			1 ♀			
カネコトタテグモ科 Antrodiaetidae									
カネコトタテグモ <i>Antrodiaetus roretzi</i> (L. Koch, 1878)	98 ♀	6 ♀	92 ♀	1 ♀	12 ♀		14 ♀		1 ♀
トタテグモ科 Halonoproctidae									
キシノウエトタテグモ <i>Latouchia typica</i> (Kishida, 1913)	1 ♀		1 ♀						
タマゴグモ科 Oonopidae									
ナルトミグモ <i>Ischnothyreus narutomii</i> (Nakatsudi, 1942)	8 ♀		8 ♀						
オキツハネグモ <i>Orcheatina okitsui</i> Oi, 1958	1 ♀	1 ♀							
ユウレイグモ科 Pholcidae									
シモングモ <i>Spermophora senoculata</i> (Dugès, 1836)	10 ♀	8 ♀	2 ♀					5 ♀	2 ♀
マシラグモ科 Leptonetidae									
ヨコフマシラグモ <i>Falcaleptoneta striata</i> (Oi, 1952)	1 ♂		1 ♂		1 ♂				
ヒメグモ科 Theridiidae									
ヤホシヒメグモ <i>Coleosoma octomaculatum</i> (Bösenberg & Strand, 1906)	1 ♀		1 ♀						1 ♀
ツリガネヒメグモ <i>Parasteatoda angulithorax</i> (Bösenberg & Strand, 1906)	1 ♀		1 ♀			1 ♀			
※ノジマモリヒメグモ <i>Robertus nojimai</i> Yoshida, 2002	1 ♀								
スネグロオチバヒメグモ <i>Stemmops nipponicus</i> Yaginuma, 1969	2 ♀		2 ♀						2 ♀
コガネグモ科 Araneidae									
ギンメッキゴミグモ <i>Cyclosa argenteoalba</i> Bösenberg & Strand, 1906	1 ♀	1 ♀							
サラグモ科 Linyphiidae									
ウエノヤミサラグモ <i>Arcuphantes uenoi</i> H. Saito, 1992	1 ♀	1 ♀							
ザラアカムネグモ <i>Asperthorax communis</i> Oi, 1960	1 ♂	1 ♂							
ニホンウスイロサラグモ <i>Asthenargus nipponius</i> H. Saito & Ono, 2001	2 ♀	2 ♀							
タテヤマテナガグモ <i>Microbathypantes tateyamaensis</i> (Oi, 1960)	33 ♀ 19 ♂	13 ♀ 4 ♂	20 ♀ 15 ♂	3 ♀ 1 ♂	1 ♀		1 ♀ 2 ♂		2 ♀
クスマサラグモ <i>Neriene fusca</i> (Oi, 1960)	1 ♀		1 ♀						
ツリサラグモ <i>Neriene japonica</i> (Oi, 1960)	1 ♀		1 ♀						
アシナガサラグモ <i>Neriena longipedella</i> (Bösenberg & Strand, 1906)	1 ♀		1 ♀						
イマダテテングスガグモ <i>Oia imadatei</i> (Oi, 1964)	381 ♀ 214 ♂	145 ♀ 100 ♂	236 ♀ 114 ♂	4 ♀	5 ♀	1 ♀	36 ♀ 14 ♂		6 ♀
フタエツノスガグモ <i>Paikiana keikoe</i> H. Saito, 1988	4 ♀	1 ♀	3 ♀				1 ♀		
オオイワヤマトコナグモ <i>Paratapiocyba oiwa</i> (H. Saito, 1980)	159 ♀ 95 ♂	19 ♀ 3 ♂	140 ♀ 92 ♂		4 ♀		11 ♀ 11 ♂		
ヒロテゴマグモ <i>Pseudomicrargus latitegulus</i> (Oi, 1960)	1 ♀	1 ♀							
ヤマトマルサラグモ <i>Saaristoa nipponica</i> (H. Saito, 1984)	10 ♀ 4 ♂		10 ♀ 4 ♂		1 ♀				
スガナミヤマジコナグモ <i>Tapinocyba suganami</i> H. Saito & Ono, 2001	10 ♀ 4 ♂		10 ♀ 4 ♂				1 ♀		1 ♀
ヤマトトウジスガグモ <i>Tojinium japonicum</i> H. Saito & Ono, 2001	1 ♀	1 ♀							
※カントウヒグスガグモ <i>Walckenaeria orientalis</i> (Oligier, 1985)	1 ♀	1 ♀							
タナグモ科 Agelenidae									
フタバヤチグモ <i>Coelotes hamurai</i> Yaginuma, 1967	21 ♀ 2 ♂	21 ♀ 1 ♂	1 ♂			3 ♀	1 ♂		
アズマヤチグモ <i>Coelotes kitazawai</i> Yaginuma, 1972	6 ♀	4 ♀	2 ♀						
ヒタチヤマヤチグモ <i>Tegeocoelotes mizuyamae</i> Ono, 2008	1 ♀	1 ♀							
ナミハグモ科 Cybaeidae									
ヨシアキナミハグモ <i>Cybaeus yoshiakii</i> Yaginuma, 1968	4 ♀ 1 ♂		4 ♀ 1 ♂						
ハタケグモ科 Hahniidae									
コタナグモ <i>Cicurina japonica</i> (Simon, 1886)	22 ♀	8 ♀	14 ♀						2 ♀
ハタケグモ <i>Hahnica corticicola</i> Bösenberg & Strand, 1906	14 ♀ 1 ♂	11 ♀	3 ♀ 1 ♂			3 ♀		7 ♀	
シボグモ科 Ctenidae									
シボグモ <i>Anahita fauna</i> Karsch, 1879	2 ♀	1 ♀	1 ♀						
キシダグモ科 Pisauridae									
アズマキシダグモ <i>Pisaura lama</i> Bösenberg & Strand, 1906	1 ♀		1 ♀						
カニグモ科 Thomisidae									
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i> L. Koch, 1878	4 ♀		4 ♀						
ニッポンオチバカニグモ <i>Ozyptila nipponica</i> Ono, 1985	8 ♀		8 ♀				2 ♀		1 ♀
トラフカニグモ <i>Tmarus piger</i> (Walckenaer, 1802)	1 ♀		1 ♀						
ヤミイロカニグモ <i>Xysticus croceus</i> Fox, 1937	2 ♀		2 ♀						
チシマカニグモ <i>Xysticus kurilensis</i> Strand, 1907	1 ♀		1 ♀						
フクログモ科 Clubionidae									
マイコフクログモ <i>Clubiona rostrata</i> Paik, 1985	1 ♀	1 ♀							
ウラシマグモ科 Phrurolithidae									
コムラウラシマグモ <i>Otacilia komurai</i> (Yaginuma, 1952)	7 ♀ 5 ♂	1 ♂	7 ♀ 4 ♂						
ウラシマグモ <i>Phrurolithus nipponicus</i> Kishida, 1914	66 ♀ 24 ♂	23 ♀ 8 ♂	43 ♀ 16 ♂		1 ♀	1 ♀	3 ♀	4 ♀	8 ♀
ワシグモ科 Gnaphosidae									
エビチャヨリメケムリグモ <i>Drassyllus sanmenensis</i> Platnick & Song, 1986	1 ♀	1 ♀							
ヤマヨリメケムリグモ <i>Drassyllus sakakawai</i> Kamura, 1987	1 ♀	1 ♀							
ツチフクログモ科 Miturgidae									
イタチグモ <i>Prochora praticola</i> (Bösenberg & Strand, 1906)	176 ♀ 1 ♂	70 ♀	106 ♀ 1 ♂	7 ♀	7 ♀ 1 ♂	2 ♀	4 ♀		
ハエトリグモ科 Salticidae									
ウデプトハエトリ <i>Harmochirus insulanus</i> (Kishida, 1914)	5 ♀	2 ♀	3 ♀						
チャイロアサヒハエトリ <i>Phintella abnormis</i> (Bösenberg & Strand, 1906)	1 ♀		1 ♀						

※茨城県初記録種.

され、科の構成ではサラゲモ科が15種(943個体)で抜き出て多かった。サラゲモ科は大きな群で、第1次から第4次のミュージアムパーク茨城県自然博物館総合調査でも、最も記録が多く(菅波, 1998, 2001, 2004, 2007)、本地域でも最も優勢な科といえよう。

採集個体数が多かったイマダテテングヌカゲモとイタチゲモ、ウラシマゲモは、県内の多数の地区で採集されており(菅波, 1998, 2001, 2004, 2007)、全県下で普通に見ることができる種といえる。オオイワマトコナゲモは、本地域では採集個体数が254個体と多いが、県内の採集記録をみると分布に偏りがある(菅波, 1998, 2001, 2004, 2007)。本地域で目立って採集されるため、仏頂山あるいはこの地域の特徴的な種の一つといえる。

採集された種の中で、カネコトタテゲモとキシノウエトタテゲモ(トタテゲモ科)は、2016年改訂版「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物(動物編)」(茨城県生活環境部環境政策課, 2016)の中で準絶滅危惧種に指定されている。両種とも地表面や土壌中から採集されることは稀であるが、本地域ではカネコトタテゲモが98個体と全体の4位を占めた。カネコトタテゲモは本地域を代表する種であり、他の地域と種組成を比較した際に、本地域の特徴を最も明確に示す種ともいえよう。

今回の調査で茨城県初記録の種は、ノジマモリヒメゲモ(ヒメゲモ科)、カントウヒゲヌカゲモ(サラゲモ科)の2種である。これらは近年になって記載された種で、今後、調査が進展すれば県内の他地域で採集される可能性も高いと思われる。

仏頂山で記録された土壌性クモ類の種数を、他地域と比べてみる。調査方法が異なるので単純な比較は行えないが、筑波山の23種(菅波, 1998)、難台山の18種(菅波, 2001)などと比べて、仏頂山の48種は極めて多い。他地域より調査頻度が高かったこと、新種の記載が進み新たな種が確認されたことなどが一つの要因と考えられる。一方、本地域の野生ハナバチ相の調査(久松, 2017)にみるように、本地域は種から見た生態系の多様性の高い地域であることが示されており、土壌性クモ類についても、非常に豊かな種が生息していることを示しているといえる。

2. 調査地による種構成の違い

シデ類が多くみられる調査地1では13科28種、シ

ラカシが多くみられる調査地2では17科36種の土壌性クモ類が記録された。今回の採集を行った2カ所での共通種は16種で、全体48種の3分の1にしかならなかった。調査地1のみで記録されたのが12種であったのに対し、調査地2のみで記録されたのが20種である。このことから、調査地1に比べ調査地2が、土壌性クモ類の種類相は豊かであると考えられる。

採集個体数が50個体を超えるような種は、調査地1, 2のいずれでも採集された。個体数が多い種の構成は、調査地間で明らかな違いは認められなかった。しかし、全体で98個体が採集されたカネコトタテゲモは、採集個体数の大半の92個体が調査地2で採集された。先述のようにカネコトタテゲモは本地域を代表する種といえるが、生息場所は地域内でも偏っている。また、共通種は全体の3分の1しかなく、調査地間で異なる植生は、クモ類の種構成に大きな影響を与えていると考えられる。しかし、調査地間のこの偏りについては、植生の違いの他にも土壌の性質や土壌動物の構成など、その他要因の存在も否定できない。調査地間の種構成の違いの要因については、今後の調査に期待している。今回の調査地と環境の違いがある稜線や林縁などの調査が進めば、新たな種の追加も期待できよう。

3. 注目種

稀に採集されて、本県を始め全国的に見て分布記録が少ない4種を以下に記す。

ノジマモリヒメゲモ *Robertus nojimai* Yoshida, 2002 (ヒメゲモ科) (図2-A)

体長はメスが2.2~2.7 mm, オスが2.0 mm 前後である。背甲は卵形、腹部は円筒形をしている。県初記録である。これまでに、東京都、神奈川県、静岡県、岐阜県、三重県、滋賀県、香川県、高知県、鳥取県、岡山県、愛媛県で採集されている(新海ほか, 2020)。

ウエノヤミサラゲモ *Arcuphantes uenoi* H. Saito, 1992 (サラゲモ科) (図2-B)

体長はメスが2.0~2.3 mm, オスが2.0 mm 前後である。栃木県栃木市の岩屋洞で最初に採集され、新種として記載された(Saito, 1992)。県内では、常陸太田市真弓山(菅波, 未発表)と鹿嶋市鹿島神宮の森(加藤, 2016)でメスの成体が採集されている。採集記録は、茨城県、栃木県、群馬県の3県のみである。

カントウヒゲヌカゲモ *Walckenaeria orientalis* (Oligier,

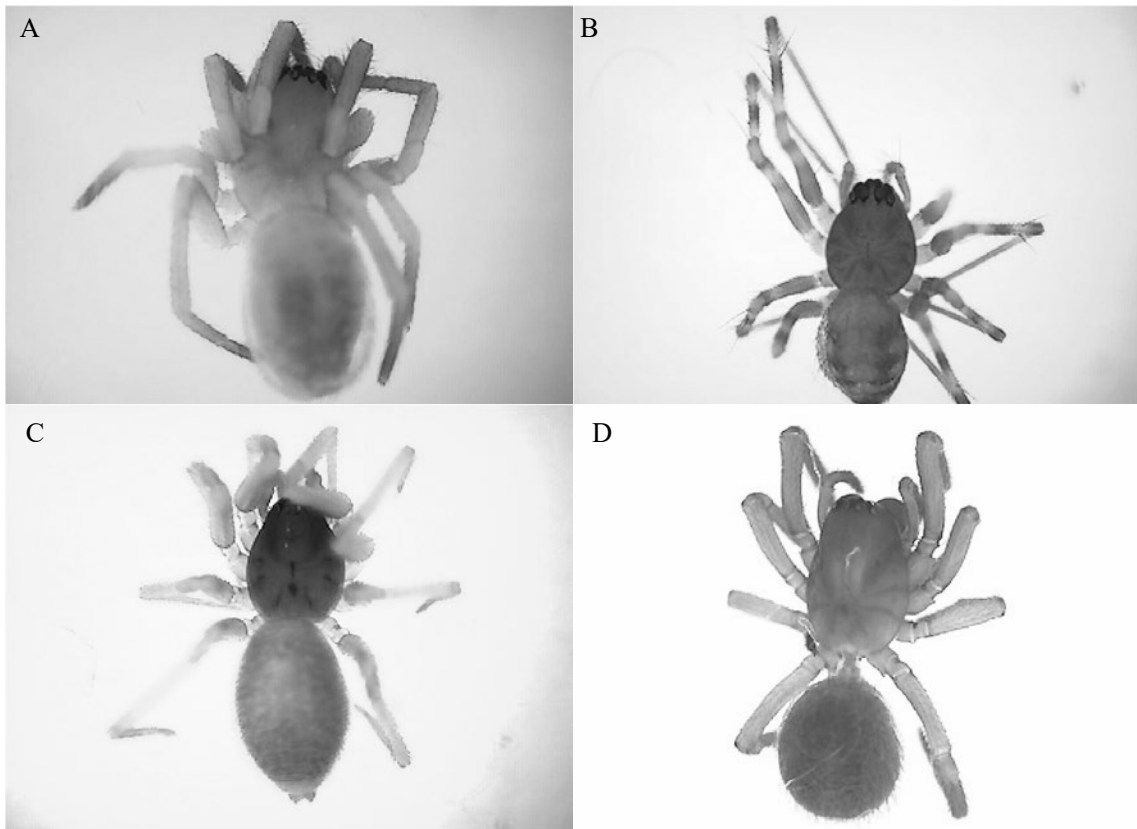


図2. 仏頂山で採集された注目される4種のクモ。A: ノジマモリヒメグモ (ヒメグモ科) のメス (1987年12月22日, 笠間市仏頂山), B: ウエノヤミサラグモ (サラグモ科) のメス (2002年12月14日, 常陸太田市真弓神社), C: カントウヒゲヌカグモ (サラグモ科) のメス (1993年11月19日, 笠間市佐白山), D: ヒタチヤマヤチグモ (タナグモ科) のメス (1987年11月23日, 笠間市仏頂山)。BとCの写真は、県内の別の場所で採集された個体。

Fig. 2. Four noteworthy spiders collected at Mt. Buttyosan. A: Female of *Robertus nojimai* Yoshida, 2002 (Theridiidae)(22 XII 1987, Mt. Buttyosan in Kasama City), B: Female of *Arcuphantes uenoi* H. Saito, 1992 (Linyphiidae) (14 XII 2002, Mayumi Shrine in Hitachiota City.), C: Female of *Walckenaeria orientalis* (Oligier, 1985)(Linyphiidae)(19 XI 1993, Mt. Sashiro in Kasama City.), D: Female of *Tegeocoelotes mizuyamae* Ono, 2008 (Agelenidae) (23 XI 1987, Mt. Buttyosan in Kasama City). Photos B and C were taken for specimens collected at different localities in Ibaraki Prefecture.

1985) (サラグモ科) (図2-C)

体長はメスが2.3 mm 前後, オスが1.8~1.9 mm で, 背甲は明るい赤褐色, 歩脚は黄褐色をしている。オスの頭部は丘形に隆起していて, 1対の角状の突起がある。県初記録である。これまでに, 栃木県, 埼玉県, 東京都, 神奈川県, 愛知県, 三重県, 岡山県で採集されている (新海ほか, 2020)。

ヒタチヤマヤチグモ *Tegeocoelotes mizuyamae* Ono, 2008 (タナグモ科) (図2-D)

体長はメスが7.5~11.0 mm, オスが6.0~10.0 mm で, 胸部と歩脚は黄褐色, 腹部は灰色もしくは肌色をしている。メスの腹部背面に黒斑があるが, オスでは不明瞭である。基準産地は土浦市宍塚で (Ono, 2008), この他に水山ほか (2009) が同地で, 馬場ほか (2010)

が牛久市遠山で採集している。

謝 辞

本報告を行うにあたって, 国立科学博物館動物研究部の小野展嗣博士には標本の同定でお世話になった。ここに深く感謝の意を表す。

引用文献

安見珠子. 2001. 仏頂山・佐白山の維管束植物. 茨城県自然博物館第2次総合調査報告書-鶏足山塊・涸沼・県央海岸を中心とする県央地域の自然-. pp.148-154, ミュージウムパーク茨城県自然博物館.

- 馬場友希・吉武 啓・平館俊太郎・楠本良延・栗原 隆・吉松慎一. 2010. 茨城県南部の農地で採集されたクモ標本目録. *Kishidaia*, (97): 84-104.
- 久松正樹. 2017. 笠間市片庭における野生ハナバチの種構成と茨城県の野生ハナバチ群集の特性の比較. *環動昆*, 27: 121-131.
- 茨城県生活環境部環境政策課. 2016. 茨城における絶滅の恐れのある野生生物 動物編 2016年改訂版(茨城県版レッドデータブック). 327 pp., 茨城県生活環境部環境政策課.
- 加藤輝代子. 2016. 潮来市・鹿嶋市(茨城県)のクモ. *Kishidaia*, (109): 50-57.
- 水山栄子・山根尚子・深澤理恵子・久地岡美保・薄井由美子. 2009. 土浦市宍塚のクモ類. *Kishidaia*, 95: 87-96.
- Ono, H. 2008. Five new species of the families Dictynidae, Coelotidae and Ctenidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Bull. Natn. Mus. Nat. Sci.*, 34: 157-171.
- 小野展嗣(編著). 2009. 日本産クモ類. 738 pp., 東海大学出版会.
- Saito, H. 1992. New linyphiid spiders of the genus *Arcuphantes* (Araneae: Linyphiidae) from Japan. *Korean Arachnol.*, 8: 13-31.
- 新海 明・谷川明男・安藤昭久・池田博明・桑田隆夫. 2020. CD日本のクモ. Ver. 2020. 自費出版.
- 菅波洋平. 1971. 茨城県の真正蜘蛛類. *Atypus*, (56): 14-37.
- 菅波洋平. 1975. 茨城県の真正蜘蛛類. 茨城の生物 第1集. pp. 131-143, 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 菅波洋平. 1991. 土壌性クモ目 (Araneae). 高萩の動物. pp. 417-422, 高萩市.
- 菅波洋平. 1992. 茨城のクモ類. 茨城の生物 平成4年版. pp. 206-209, 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 菅波洋平. 1998. クモ類. 茨城県自然博物館第1次総合調査報告書-筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然-. pp. 302-305, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 菅波洋平. 2001. クモ類. 茨城県自然博物館第2次総合調査報告書-鶏足山塊・涸沼・県央海岸を中心とする県央地域の自然-. pp. 332-342, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 菅波洋平. 2004. クモ類. 茨城県自然博物館第3次総合調査報告書-阿武隈山地・県北部海岸を中心とした県北東部地域の自然-. pp. 366-370, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 菅波洋平. 2007. クモ類. 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書-八溝山地・久慈川を中心とする県北西地域の自然-. pp. 333-338, ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 谷川明男. 2020. 日本産クモ類目録 ver. 2020R3. *Kishidaia*, (117): 162-238.

(要 旨)

菅波洋平・久松正樹. 笠間市仏頂山で採集された土壌性クモ類. 茨城県自然博物館研究報告 第23号 (2020) pp. 75-82.

1987～1988年にかけて笠間市仏頂山で採集した土壌性クモ類のリストを作成した. 20科48種が記録され, その中には国内で記録が少ないノジマモリヒメグモ, ウエノヤミサラグモ, カントウヒゲヌカグモ, ヒタチヤマヤチグモが含まれる.

(キーワード): クモ綱, クモ目 (真正クモ目), ノジマモリヒメグモ, ウエノヤミサラグモ, カントウヒゲヌカグモ, ヒタチヤマヤチグモ.